

財政状況等一覧表（平成19年度）

(単位:百万円)

団体名 青森市

標準税収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
40,357	22,315	2,306	64,978

1.一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	110,140	108,981	1,159	884	1,041	166,855	
土地区画整理事業特別会計	3,087	3,074	13	13	371	4,965	
公共用地取得事業特別会計	46	46	0	0	46	275	
霊園特別会計	255	254	1	1	180	1,686	
母子寡婦福祉資金貸付金特別会計	138	95	43	43	17	0	
学校給食特別会計	2,332	2,309	23	23	1,040	1,507	
特定基金特別会計	29	29	0	0	0	0	
一般会計等	114,343	113,105	1,238	964		175,288	

2.公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
病院事業会計	11,725	12,015	290	653	814	5,648	3,807	法適用
水道事業会計	6,296	5,941	355	2,789	0	19,315	398	法適用
自動車運送事業会計	2,776	2,947	171	997	102	246	228	法適用
索道事業特別会計	51	51	0	0	39	232	232	
下水道事業特別会計	15,920	15,888	32	32	1,563	87,459	33,409	
中央卸売市場特別会計	759	757	2	2	174	5,011	2,200	
農業集落排水事業特別会計	296	292	4	4	192	3,778	3,026	
競輪事業特別会計	14,967	14,434	533	533	0	0	0	
国民健康保険事業特別会計	31,295	31,269	26	26	2,327	0	0	
老人保健事業特別会計	24,383	24,383	0	0	2,020	0	0	
介護保険事業特別会計	17,813	17,792	21	21	2,681	0	0	
公営企業会計等 計				3,063		121,689	43,300	

- (注) 1.法適用企業とは、地方公営企業法を適用している公営企業である。
 2.法適用企業に係るもの以外のものについては「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。
 3.「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(～)で表示している。
 4.「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3.関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
青森地域広域消防事務組合	4,463	4,373	90	90	0	649	649	
青森地域広域事務組合(一般会計)	1,597	1,533	64	64	0	4,174	2,672	
青森地域広域事務組合(公立大学特別会計)	1,742	1,670	72	72	0	1,922	1,922	
津軽広域水道企業団津軽事業部	2,025	1,818	207	2,436	0	8,246	0	法適用
黒石地区清掃施設組合	1,437	1,371	66	66	0	871	145	
南黒地方福祉事務組合	475	441	34	34	0	164	23	
青森県後期高齢者医療広域連合	785	688	97	97	0	0	0	
青森県市長会館管理組合	3	2	1	1	0	0	0	
青森県交通災害共済組合	233	214	19	19	0	0	0	
一部事務組合等 計				2,879		16,026	5,411	

4.地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
青森市土地開発公社	58	153	5	0	0	7,302	0	0	
青森市観光レクリエーション振興財団	10	17	5	0	0	-	0	0	
青森市シルバー人材センター	1	52	3	21	0	-	0	0	
青森市文化スポーツ振興公社	24	117	100	0	0	-	0	0	
青森市水道サービスセンター	0	11	10	0	0	-	0	0	
青森産業展示館	14	184	20	7	0	-	0	0	
青森情報処理開発財団	1	418	20	0	0	-	0	0	
青森駅前再開発ビル	56	25	275	0	450	-	0	0	
青森市交通事業振興株式会社	0	20	5	0	0	-	0	0	
ソフトアカデミーあおもり	209	637	200	0	351	-	0	0	
アップルビル	5	57	30	0	0	-	0	0	
青森学術文化振興財団	4	2,230	1,000	0	0	-	0	0	
地方公社・第三セクター等 計			1,673	28	801	7,302	0	0	

(注) 損益計算書を作成していない民法法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
財政調整基金		2,354	
減債基金		3,550	
その他充当可能基金		2,373	
充当可能基金計		8,277	

(注) 充当可能基金とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

財政指標名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
実質赤字比率	1.79	1.48	0.31	11.25	20.00	病院事業会計		5.8	
連結実質赤字比率		6.19		16.25	40.00	水道事業会計		44.9	
実質公債費比率	16.0	15.1	0.9	25.0	35.0	自動車運送事業会計		37.1	
将来負担比率		194.5		350.0		索道事業特別会計		-	
財政力指数	0.60	0.59	0.01			下水道事業特別会計		0.6	
経常収支比率	89.8	92.1	2.3			中央卸売市場特別会計		0.3	
						農業集落排水事業特別会計		6.4	

(注) 1. 実質赤字比率・連結実質赤字比率・資金不足比率は負数(～)で表示しており、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。

2. 資金不足比率の早期健全化基準に相当する「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 20%である(公営競技は0%)。

7.健全化判断比率等の分析及び今後の対応方針

(1)健全化判断比率等の分析

	比率	分 析 欄
実質赤字比率	-	青森市においては、実質収支の恒常的な黒字化を目指すため平成18年2月に策定した『行財政改革プラン・プログラム』の実施や、歳出全般にわたる効率化・合理化を進め、財政構造健全化のための取り組みを実施した結果、平成19年度決算においては実質赤字が発生していません。 今後も引き続き行財政運営基盤の確立を目指して参ります。
連結実質赤字比率	-	平成19年度決算においては、自動車運送事業会計で約9.9億円の資金不足が生じましたが、その他の会計においては約52億円の黒字(剰余金)が生じたことから、連結ベースでは自動車運送事業会計の資金不足額が打ち消された形となり、結果、連結実質赤字は発生していません。 資金不足が生じた自動車運送事業会計においては、経営改善に向けた検討が急務となります。
実質公債費比率	15.1%	国の経済対策に呼応した公共投資の実施や新幹線開業対策に向けた基盤整備事業などの大規模事業が行われていますが、早期健全化基準値(25.0%)に対し比較的抑制された結果となっています。これは交付税措置など比較的可利な制度を活用してきたこと、現在公共投資経費に充当する一般会計の市債発行額を100億円以内に抑制していること、また公債費負担の平準化を図っていることなどから、今後は更なる減少が見込まれます。
将来負担比率	194.5%	これまでの公共投資における地方債残高や土地開発公社の借入に対する将来負担、職員退職手当予定額などが占める割合が、他の類似団体と比較するとやや高い傾向となっているが、退職者不補充や地方債の低利債への償換、交付税措置がある有利な地方債の活用し、今後も他の類似団体との比較・分析を行いながら、持続可能な財政基盤の確立に努めます。
資金不足比率		
病院事業会計	-	平成19年度決算においては資金不足は生じておりませんが、病院事業を取り巻く経営環境は依然として厳しいことから、経営改善に向けた取組を今後ともおこない、経営健全化・効率化に努めます。
水道事業会計	-	平成13年度以降より給水量の減少傾向が続いており、水道料金収入は年々減少しております。また、安全で安心な水道水の安定供給のため管路の耐震化・老朽施設の更新等に多額の投資が必要であり、経営環境は厳しい状況ですが、人件費の削減や高利率の企業債の償還が進んだこと等により平成19年度も黒字収支となりました。今後も、引き続き事務・事業の効率化・外部委託を進め、財政運営基盤の確立に努めます。
自動車運送事業会計	37.1%	近年は全国的に広がるマイカー普及等を要因に利用者減の一途をたどり、増収対策とともに退職者の不補充や一部路線の委託化などを実施し収支均衡による恒常的な経営基盤の確立に向けてこれまで進めてきましたが、経費抑制を上回る利用者減による減収により資金不足が生じ、経営健全化基準を上回っている状況にあります。今後、『総合都市交通戦略』の検討とあわせ、路線・運行便数の調整を行うとともに、引き続き正職員退職者不補充を原則とし、再任用職員及び嘱託職員の有効活用による人件費抑制など経費の効率化に努めて参ります。
索道事業特別会計	-	本市の索道事業特別会計においては、市所有の索道施設の地方債の元利償還のみを行っている会計であるため、平成19年度決算においては資金不足は生じていない。今後も適正な繰入金の確保に努めます。
下水道事業特別会計	-	平成19年度決算においては資金不足は生じていないものの、今後も引き続き行政評価に基づく一層の施策の重点化と事務事業の厳選により、限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、経営健全化に努めます。
中央卸売市場特別会計	-	平成19年度決算においては資金不足は生じていないものの、今後も引き続き行政評価に基づく一層の施策の重点化と事務事業の厳選により、限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、経営健全化に努めます。
農業集落排水事業特別会計	-	平成19年度決算においては資金不足は生じていないものの、今後も引き続き行政評価に基づく一層の施策の重点化と事務事業の厳選により、限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、経営健全化に努めます。

(注)1 「実質赤字比率」及び「連結実質赤字比率」は、赤字がある場合に比率を正数で表示し、黒字の場合は「-」と表示している。

2 「将来負担比率」及び「資金不足比率」は、将来負担額又は資金不足額がない場合は「-」と表示している。

(2)今後の対応方針

<p>青森市の財政状況は、自動車運送事業会計の資金不足額を除き、直ちに早期健全化団体に該当するものではありませんが、今後も平成18年2月に策定した『行財政改革プラン・プログラム』を断行し、将来世代に責任のもてる行財政運営基盤の確立を目指す取り組みにより、健全な財政環境に努めることとしております。また、自動車運送事業会計においては、引き続き退職者不補充と再任用職員及び嘱託職員への移行による人件費の抑制に努めるとともに、運行費用の効率化とバス路線の再編など、事業経営の健全化に取り組むこととしております。</p>
--